

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-750   A-142	23-069	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Differential Associations of Alcohol Use With Ischemic Heart Disease Mortality by Socioeconomic Status in the US, 1997-2018 米国における社会経済的地位別のアルコール摂取と虚血性心疾患死亡リスクの差異：1997-2018年		
<b>執筆者</b>		
Zhu Y, Llamosas-Falcón L, Kerr W, Puka K, Probst C.		
<b>掲載誌</b>		
JAMA Netw Open. 2024 Feb 5;7(2):e2354270. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2023.54270		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
社会経済的地位、虚血性心疾患、コホート研究		38300620
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>社会経済的地位 (SES) の低い人々は、SES の高い人々と比較して、同程度の飲酒量でもアルコールに起因する健康状態や死亡による負担が大きい。また、アルコール使用と虚血性心疾患 (IHD) の間には U 字型の関連が報告されており、このような関連が、SES によってどのように異なるか米国一般集団にて検討する。</p> <p><b>方法：</b>1997 年から 2018 年の間に実施された米国の全国健康インタビュー調査のデータを用い、25 歳以上の米国成人を対象に 2019 年まで追跡調査を行った。曝露要因である SES と飲酒量は自記式調査票から取得し、アウトカムは IHD による死亡とした。性別を層別化し、Cox 比例ハザードモデルを用いて、教育歴と飲酒の交互作用、年齢を時間依存共変量とし、人種と民族、婚姻状況、喫煙、BMI、身体活動、調査年を調整して解析を行なった。競合リスクを考慮するために、部分分布ハザード (Fine-Gray) モデルを用いた。</p> <p><b>結果：</b>対象者は 524,035 名 (調査開始時の平均年齢[SD]は 50.3[16.2]歳で、女性は 51.5%) であった。高 SES 群では低 SES 群と比較して、1 日 20g 未満の飲酒 (生涯禁酒と比較) と IHD 死亡率との予防的関連が統計的に有意に高かった (男性では交互作用項ハザード比[HR]: 1.22 [95% CI, 1.02-1.45]、女性: HR1.35 [95% CI, 1.09-1.67])。さらに、1 日 20g 未満の飲酒と IHD 死亡率との SES の関連性では、月 1 回以上の大量飲酒 (HED) がない群のみに差が認められた (男性では交互作用項 HR 1.20 [95% CI 1.01-1.43]、女性では HR 1.34 [95% CI 1.08-1.67])。少なくとも月 1 回の HED がある群では差は認められなかった。女性では、中 SES 群よりも高 SES 群で 1 日 20g 未満の飲酒と IHD 死亡率との保護的関連性が強かった (交互作用項 HR 1.35 [95% CI 1.06-1.72])。男性では、60g 以上の飲酒が低 SES 群の IHD 死亡率に対して有害な関連を示したが、これは他の行動リスク因子 (喫煙、体格指数、身体活動) によって大部分が説明された。</p> <p><b>結論：</b>このコホート研究では、月 1 回以上の HED がない場合、20g 未満の飲酒が高 SES 群において低 SES 群よりも IHD 死亡率に対して予防的な関連が認められた。これらの知見は、アルコール使用に関する公衆衛生介入が異なる社会経済的背景を考慮する必要があることを示唆している。</p>		